



西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版



すべての子供に「できた」「わかった」を!

【学校訪問からの好事例紹介】

「めあて-まとめ・振り返り」のある授業の中で
1人1台端末を効果的に活用した取組

すべての子供に「できた」「わかった」を!

指導案のセルフチェックで
「めあて・まとめ」の質の向上を図る

【大妻女子大学樺山先生から学ぶ授業づくり】
日々の取組の中で「読解力」「記述力」を育てる!

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
「チーム」で行う生徒指導

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
生徒指導担当は生徒指導のコーディネーター②

すべての子供に「できた」「わかった」を!
ICTを活用した授業づくりの充実に向けて③

「ほっと通信」

子供が伸びる「ほめ方・言葉かけ」～10の原則～

【西部地域開催】

鳥取県エキスパート認定教員による
公開授業及び研修会の御案内

尚徳中学校(理科)の実践より

多くの学校で「めあてーまとめ・振り返り」のある授業が見られるようになりました。

ポイント① 1時間で「めあてーまとめ・振り返り」までを終え、その過程が板書に可視化されている。

20. 不要な物質のゆくえ 教P.44.

めあて
体の中の不要な物質が排出されるしくみを説明しよう。
《不要な物質》
ブドウ糖 → 細胞
アミノ酸 → 細胞呼吸 → 二酸化炭素
脂肪 → 細胞呼吸 → 水
→ アンモニア

point 肝臓のはたらきは500種類以上。
(例) 胆汁をつくる、アンモニア→尿素 など

point 余分な水分、塩分なども尿素と一緒に尿として排出される

まとめ
細胞でできたアンモニアは排出系(肝臓、じん臓など)を通して、害の少ない物質に変わり、尿として排出される。

ふりかえり 自分の説明は何点(何%)

14:15 ~ 録画

GOOD!

※授業終了時の板書

ポイント② 1人1台端末が活用され、すべての生徒に「説明する」機会が確保されている。

教科を問わず、多くの授業で「～を説明しよう」という「めあて」を目にしますが、実際に説明する機会が設けられているでしょうか?

本授業では、すべての生徒が端末で資料を提示しながら説明していました。また、聞き側が、その様子を端末で録画することで、自己評価や相互評価に生かすことができていました。

その動画は、教師の評価材料としても活用することができます。

GOOD!

相手の説明を録画して、評価に活用

説明資料として活用

ポイント③ 生徒が自らの学びを振り返ることができている。

板書やワークシートに、「自分の説明は何点(何%)」と視点を示すことで、生徒が授業で使用された言葉を用いながら学びを振り返ることができていました。

【生徒の「振り返り」より】

- 基本的な知識は言えたけど区別されるしくみなどが言えてなかった。(達成度70%)
- 塩分のことを説明していなかったので、100点をとることができなかった。(達成度90%)
- 「余分な塩分を排出することで、血中の塩分濃度を下げる」みたいな働きの説明が足りなかった。(達成度70%)」

20. 不要な物質のゆくえ (教科書P.44 たの理⑧)

単元目標
動物の体のつくりや、体の中のままざまはたらきを理解し、説明できるようになる。

学習のめあて
体の中の不要な物質が排出されるしくみを説明しよう。

自分の説明は何点(何%)? 100点をとることができなかった。塩分について説明できなかった。

《不要な物質》
ブドウ糖 → 細胞呼吸 → 二酸化炭素
アミノ酸 → 細胞呼吸 → 水
脂肪 → 細胞呼吸 → アンモニア

《アンモニアの排出の流れ》
細胞 → 肝臓 → じん臓 → 尿

アンモニアが排出される → アンモニアが尿にかわる → 尿

肝臓のはたらきは500種類以上
(例)胆汁をつくる、アンモニア→尿素 など

☆課題 ☆ 映像に合わせて、尿をつくる際のじん臓の様子を説明しよう。

（原簿）
腎臓は血液からアンモニア、ブドウ糖、尿酸、水分、無機物をこし出して、アンモニアと一緒に尿をつくる。不要な物質

GOOD!

※授業終了時のワークシート

すべての子供に
「できた」「わかった」を!

指導案のセルフチェックで 「めあて・まとめ」の質の向上を図る



指導案は完成したけれど、本当にこのめあてとまとめでよいのだろうか。



下の例のような「めあて・まとめのセルフチェック」を実施されてはいかがでしょうか。

指導案を提出する前に!! 「めあて・まとめのセルフチェック」(例)

学習内容	発問と予想される児童の反応	教師の支援
1 問題を把握する。	花だんの $\frac{3}{4}$ に花が植えてあります。 花だんの面積は 12m ² です。 花が植えてあるところの面積は何m ² ですか。	○花が植えてある範囲を予想しながら、児童と一緒に問題を作っていくことで問題把握につなげる。 ○問題文の中から疑問に思うことを問うことで、本時の課題につなげる。
2 めあてを設定する。	○問題の中で、よくわからないなと思うのはどこ。 ・ $\frac{3}{4}$ って何のことかな。 ・ 何算になるのかな。 ・	

【めあて】 分数の意味を考え、答えの求め方を説明しよう。

【まずは、△のめあてになっていないかどうかをチェックしましょう!】



**めあてを
チェック!**

- △まとめと正対していない。
- △本時の単元名やタイトルがめあてになっている。
- △「達成できない」、または「達成できたかどうかを評価できない」めあてになっている。
→「○○名人になろう」、「日本一美しい字を書こう」、「考えながら歌おう」など。
- △活動がめあてになっている。
→「日本の工業生産についてグループでまとめよう」、「粘土で作品をつくろう」など。
- △本時で子供に気付かせたいことがめあてになっている。
→「複雑な形の面積を、公式を使って求めよう」など。

【質の高いめあてになっているかどうかをチェックしましょう!☑がつけば、◎のめあてです!】

- ☐授業中に、何度も立ち返ることのできるめあてになっている。
- ☐本時で「何ができればゴールなのか」を児童生徒がイメージできるめあてになっている。
- ☐授業が終わった後、子供が自分の学びを評価できるめあてになっている。

【まとめ】 分数も、全体を1としたときの割合を表すことができる。その割合にあたる大きさを求めるときは、「全体の大きさ×分数」で求めることができる。

【まずは、△のまとめになっていないかどうかをチェックしましょう。】



**まとめを
チェック!**

- △めあてと正対していない。
- △本時の問題にしか適用できないまとめになっている。
- △どの単元でも、どの領域でもあてはまるまとめになっている。
→「図に表して考えると立式しやすい」など。

【質の高いまとめになっているかチェックしましょう。】

☑がつけば、◎のまとめです!】

- ☐本時で学んだポイントがまとめになっている。
- ☐展開とつながりのあるまとめになっている。
- ☐評価の観点と関連したまとめになっている。
- ☐教科で育てる資質・能力に沿っている。



このまとめを子供から引き出すためのキーワードは…

**まとめからの逆思考で
授業を構成!**

研究の秋です。この時期は、授業研究会等で指導案を作成したり検討したりする機会が多いのではないのでしょうか。指導案を作成するのはとても大変ですが、「指導案を完成させること」がゴールではなく、単元や題材で身に付けるべき資質・能力を明確にしたり、指導の意図を参観者に伝えたりするためのツールとして活用することが大切です。



言語事項や文法の理解はできているが、読解力や記述力はなかなか身に付かないな。



「条件に合わせて書くこと」や「目的をもって読むこと」の経験が不足しているのかもしれませんが。

R3.10.25
第2回 国語の授業
づくり研修会より

読解力と記述力を向上させるために意識すべきは「多書多読」「速読速書」「3Z」



樺山先生

読解力と記述力を向上させるためには、ある程度難易度の高い情報を時間内に読み切ったり、**3Z(時間・字数・条件)**を意識して書いたりする経験を積み重ねることが有効です。

(例) **時間** : 3分
字数 : 100字
条件 : 結論を先に言う
叙述を2つ以上取り出す
キーワードを全て入れる
自分の考えを必ず入れる など

米子市立五千石小学校の実践より

【その①】帯時間を利用した**速読速書**の取組で「読む」「書く」を鍛える!



新聞社の提供しているワークシートを使って、**決められた時間内**に記事の中から**必要な情報を抽出**したり、内容を読んで**自分の意見を書いたり**する活動が定期的に行われています。



↑学校で使用しているワークシート

【実践から得られた効果】※学校への聞き取りより

- ・初見初読の難しい文章が読めるようになってきた。
- ・取り組み始めた当初は的外れな解答も多かったが、現在は的確に読んだり書いたりできるようになった。

【その②】日々の授業の「まとめ」「振り返り」を**3Z**で!

4年国語「くらしの中の和と洋」の学習では、本文から読み取った重要な言葉や文を使うという**条件**をもとに、子供一人一人が**字数を意識**しながら自分でまとめをついています。



また、振り返りについては、**視点をもとに書くよう指示**されています。

文を読み **指導案に示されたまとめの例** きますこと

由 和室のすごし方の良さは、たたみに直接すわるため、**いろいろなしせいをとることができること**や**人と人との間かくを自由にえられること**だ。洋室のすごし方の良さは、いすにこしかけるため、**長時間同じしせいですわっていてもつかれにくく、次の動作にうつることがかん単にできること**だ。(134文字)

字数の意識

指導案に示された振り返りの視点

- 1 中心となる語や文を見つけたか。
- 2 和室と洋室のそれぞれの良さを読み取り、要約したか。
- 3 友だちと学習することで、自分の考えが広がり深まったりしたか。
- 4 要約する力を他の学習でも使えそうか。

読解力や記述力は国語の学習のみで育成するものだと思われがちですが、「まとめ」や「振り返り」の中で3Zを意識するなど、他教科・領域においても「書く」「読む」活動の質と量を増やしていくことが大切です。



組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」 「チーム」で行う生徒指導

西部教育局
お役立ち情報
令和3年11月号

～このような場合はありませんか？～

- 定期的にケース会議等を行っているが具体的な動きに繋がらない⇒【解決策1】
- 関係機関との連携をどのように進めたらよいかわからない ⇒【解決策2】

解決策1 継続的にアセスメントを行い、支援計画の見直し等を行う。

①情報収集・情報共有

- ◆養護教諭、特別支援教育担当、SC、SSW等の多様な視点を踏まえる。

②支援計画の振り返り

- ◆「誰が・いつ・誰に・何を」行ったか、「子供に変容があったか」等について確認する。

④支援計画の実施

- ◆学校、保護者、関係機関等で支援計画を共有し、組織的・計画的な支援を行う。
- ◆支援後の様子等を記録する。

③支援計画の検討

- ◆長期目標と短期目標を明確化する。
- ◆「誰が・いつ・誰に・何を」行うことが効果的か検討し、具体的な役割分担をする。



ケース会議等が単なる「報告会」にならないようにすることが大切です。これまでの支援の振り返りとこれからの具体的な支援の見直しをもつことが重要です。

解決策2

まずは、学校が子供の実態に応じて関係機関の役割にあった連携を図る。その後、保護者や子供を関係機関につなげる。

関係機関との連携を進めるための手順(例)

①校内で役割分担を決める。(例)

生徒指導担当=警察
教育相談担当=SC
特別支援教育担当=医療担任=教育支援センター

②各担当者が関係機関とつながりをつくる。(例)

関係機関に連絡する。
関係機関を訪問する。

③関係機関の役割等を教職員に周知する。

担当者から関係機関に報告・連絡・相談する。
ケース会議等への参加を依頼する。

関係機関の役割(例)

- ◆校内体制への支援
- ◆関係機関とのネットワーク構築・連携・調整 など

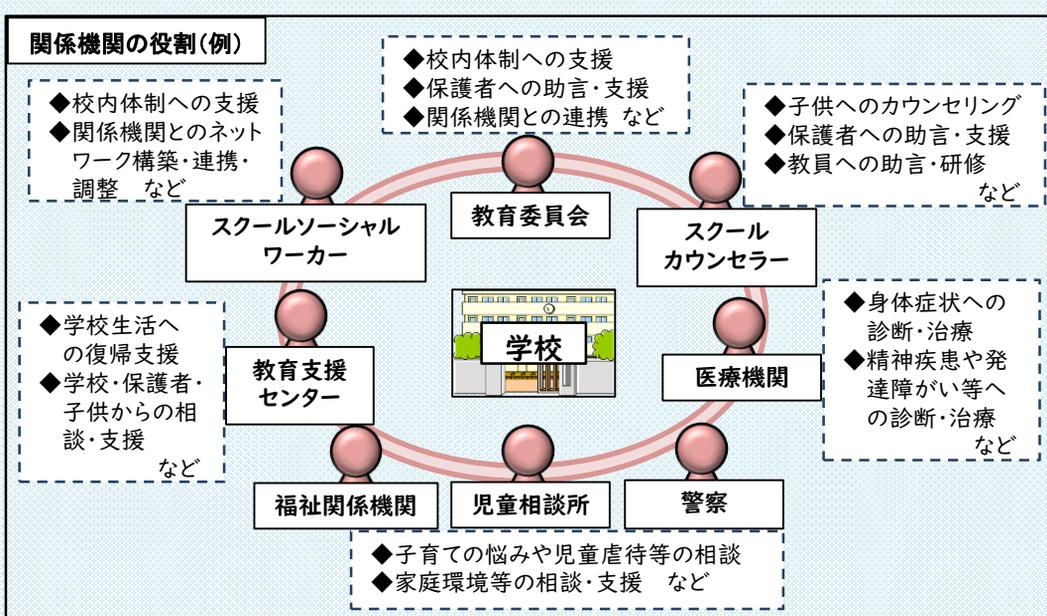
- ◆校内体制への支援
- ◆保護者への助言・支援
- ◆関係機関との連携 など

- ◆子供へのカウンセリング
- ◆保護者への助言・支援
- ◆教員への助言・研修 など

- ◆学校生活への復帰支援
- ◆学校・保護者・子供からの相談・支援 など

- ◆身体症状への診断・治療
- ◆精神疾患や発達障害がい等への診断・治療 など

- ◆子育ての悩みや児童虐待等の相談
- ◆家庭環境等の相談・支援 など



保護者や子供と関係機関をつなぐ前に、まずは学校が関係機関としっかりつながっていることが大切です。そのためには、校内で「誰が」「どこの機関」に報告・連絡・相談をするのかを明確にしておくことが重要です。